



地味な鉄道ファン「押し鉄」の楽しみ

会員 齋藤 大 (59 期)

「押し鉄」とは

鉄道ファンと呼ばれる人々にも様々なジャンルがある。良く認知されている鉄道写真の「撮り鉄」、乗りつぶしの「乗り鉄」、鉄道模型の「模型鉄」などがあるが、駅の記念スタンプ（駅スタンプ）を押印して収集する地味な鉄道ファンが「押し鉄」である。

駅スタンプの収集歴

私は、現在 34 歳であるが、幼児の頃から鉄道が好きで、踏切に電車を見に行くとずっと家に帰らない子であった。

小学校の 6 年生になったころ、新潟の祖父宅に上越新幹線を利用せずに在来線で行くことを始め、わざと遠廻りの経路を選択し、乗換時間や時折長く停まる駅で途中下車しては駅の記念スタンプを押しまくった。

いつしか、列車に乗って目的地に向かうことよりも駅スタンプを集めるために乗るという感じになってしまった。

駅スタンプは、主要駅だけでなく、地方の小さな駅でも駅員がいれば事務室内で保管されていることがある。昔から盗難被害があるので多くの駅スタンプは駅の事務室に保管されることが多く、駅員に頼んで押させてもらう。駅員がどの曜日のどの時間帯にいるのかが極めて重要で、最近ではインターネット上の情報サイトで調べられるが、昔はその駅に辿り着いても駅員がいなくて押せないという悲劇が何度もあった。

こうして、正確に数えてはいないが 1600 駅くらい押印していると思う。

かなり細かく押し廻っているのですがそれでも北は北海道、西は四国を全制覇したまでであり、中国地方の約半分と九州全土は今後の楽しみである。

「押し鉄」にはまる理由

駅スタンプには、その駅の地域で一番アピールしたい景勝地、名産品、神社仏閣、温泉、祭り、産業、偉人、テーマパークなどが手のひらサイズに図柄と文字で凝縮されている。

写真①は三重県の JR 関西本線関駅の駅スタンプ。旧東海道の宿場町の町並みと寺院をアピールしている。



このスタンプは集印した中でサイズが最大のものであった。

写真②は北海道にある JR 函館本線美唄駅の駅スタンプ。かなり古いもので図柄は地場産業の炭坑である。美唄の炭坑は現在も稼働しているようであるが、この駅スタンプが作られた当時は炭坑が最盛期であったに違いなく、石炭産業の歴史を伝えている。

写真③は、千葉県にある JR 外房線行川アイランド駅の駅スタンプ。こちらは押印したときにテーマパーク「行川アイランド」の下車駅であったが、その後廃業して駅も無人駅となり、当時の華やかだった駅の過去が偲ばれる。

収集した駅スタンプには、津波で流された駅、原発事故で営業しなくなった駅、路線そのものが廃線になってしまった駅もあり、ノートを見ると感慨深い。

各地の駅スタンプが徐々に集まってくると、日本地理の教科書の超詳細版のような感じで日本全国をくまなく知り尽くせたかのような錯覚を楽しめる。

それで「押し鉄」にはまってしまっているのだ。

最近では

遠方の列車本数の少ない地方で集中的に「押し鉄」をやるには、長期休暇が必要であるが、家族の厳しい視線や業務の忙しさのため最近ではまとまった「押し鉄」をやれていない。

ただ、初めての相談者との雑談で、出身地の話になったとき、最寄駅を言っていただければ「〇〇が有名なところですよ」「よく知っていらっしゃいますね」と話を合わせ、相談者の心を少し和ませることができ、仕事にもこの趣味が微力ながら役立っている。